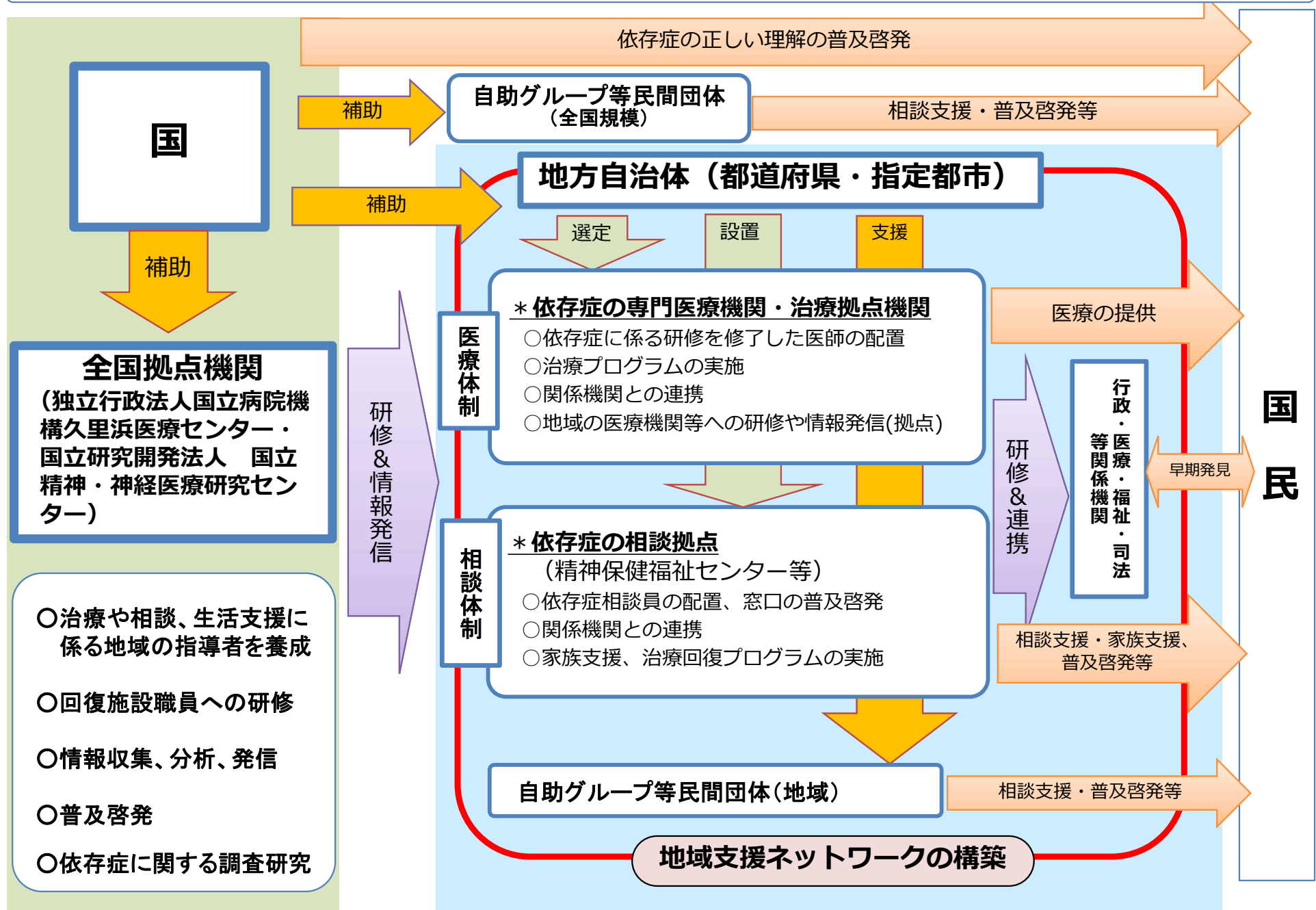


## 厚生労働省の依存症対策について

厚生労働省  
障害保健福祉部精神・障害保健課  
依存症対策推進室

# 依存症対策の全体像

○依存症対策（アルコール・薬物・ギャンブル等）については、各地域における支援ネットワーク構築、全国拠点機関による人材育成・情報発信や、依存症の正しい理解の普及啓発などを総合的に推進。



# 依存症対策地域支援事業

都道府県・指定都市等において、医療機関や精神保健福祉センター、保健所、市町村、民間団体・回復施設、保護観察所等が相互に有効かつ緊密に連携し、専門医療機関及び治療拠点機関の選定や相談拠点（依存症相談員の配置）の設置、普及啓発など、地域のニーズに合わせた総合的な支援を提供する。

実施主体：都道府県、指定都市、保健所設置市、特別区 ※保健所設置市及び特別区は、（１）の一部、（８）～（１０）除く。

補助率：1/2、（９）は10/10、（１０）は加算率に乗じた額

【内容】

**（１）依存症地域支援体制推進事業**

**（２）連携会議運営事業**

**（３）依存症専門相談支援事業**

**（４）依存症支援者研修事業**

**（５）普及啓発・情報提供事業**

**（６）依存症の治療・回復支援事業**

**（７）依存症患者の家族支援事業**

**（８）受診後の患者支援事業**

**（９）地域連携による依存症早期発見、早期対応、継続支援モデル事業**

**（１０）精神科救急・依存症医療等連携事業**

# 薬物依存症対策の取組について

## 1. 地域における相談体制・医療体制の構築

- 都道府県・指定都市において、相談拠点・専門医療機関を整備

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
相談拠点	62自治体	66自治体	67自治体
専門医療機関	49自治体	52自治体	54自治体

## 2. 薬物依存症関連の人材育成

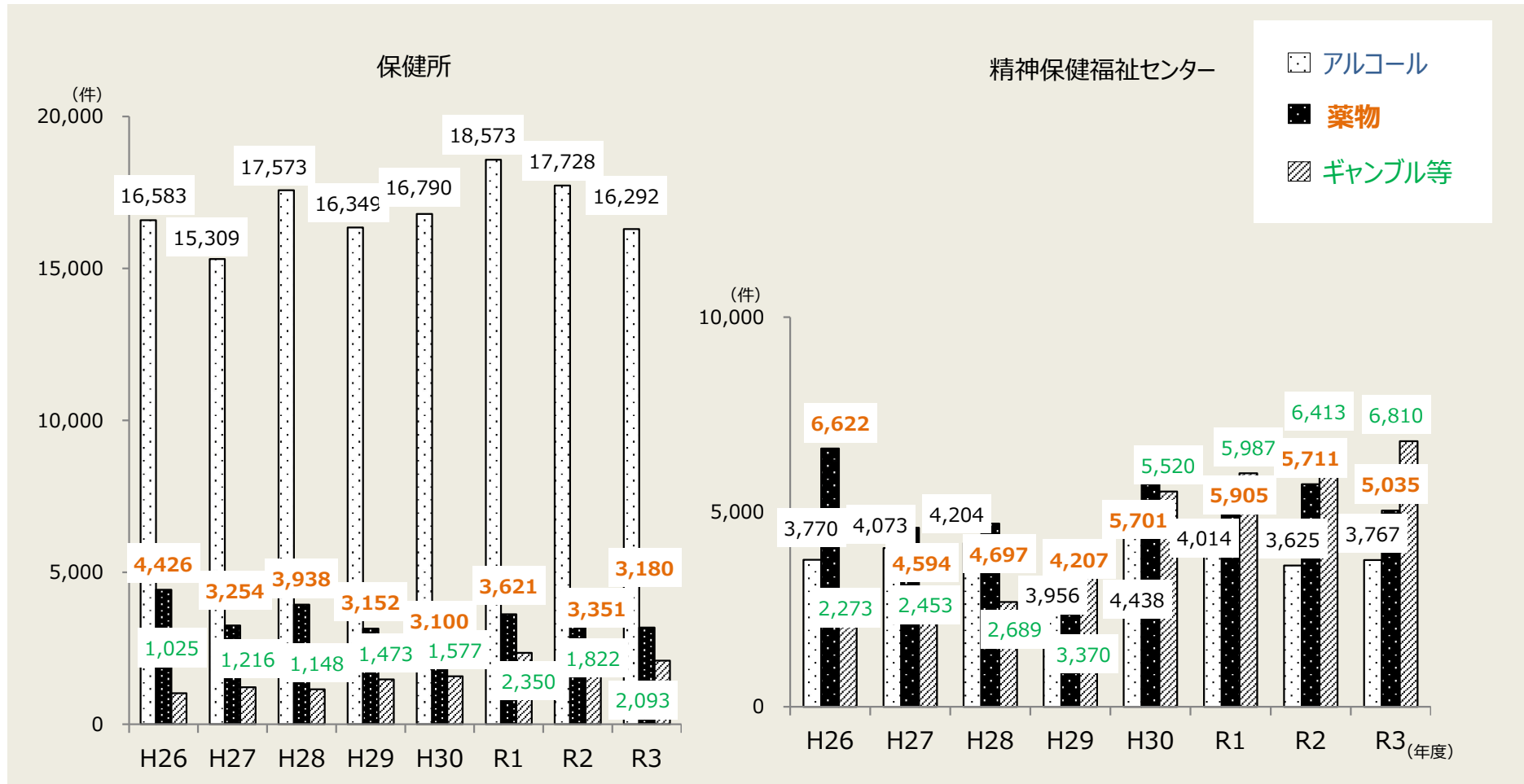
【全国拠点機関（国立精神・神経医療研究センター）】

- 治療・相談対応指導者の養成研修、ダルク等回復施設職員向け研修等を実施

【都道府県・指定都市】

- 上記の指導者研修の修了者等を活用し、医療従事者・相談員向け研修等を実施

# 保健所及び精神保健福祉センターにおける相談件数



(出典：保健所 地域保健・健康増進事業報告、精神保健福祉センター 衛生行政報告例)

## 近年の依存症患者数の推移

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
<b>アルコール 依存症</b>	外来患者数	88,822	91,340	96,568	102,086	101,614
	(入院患者数)	(29,649)	(29,205)	(29,555)	(28,998)	(27,510)
<b>薬物依存症</b>	外来患者数	11,208	11,851	12,415	13,083	13,451
	(入院患者数)	(3,159)	(3,143)	(3,067)	(3,081)	(2,924)
<b>ギャンブル等 依存症</b>	外来患者数	1,821	2,246	2,839	3,527	3,590
	(入院患者数)	(269)	(296)	(362)	(384)	(364)

出典：厚生労働行政推進調査事業費補助金「良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究」  
(精神保健福祉資料)

※1) 精神科を受診した者の数

※2) レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)を基に算出しているため、保険診療の患者に限られ、生活保護受給者等は含まれない。

# 依存症対策ポータルサイト内 相談窓口・医療機関検索マップ




- ホーム
- 気づく
- 理解したい
- 気づいたらどうする?
- 制度・施設
- 海外の動き
- 文楽者の皆様へ
- 資料
- トピックス

ホーム 気づいたらどうする? 全国の相談窓口・医療機関を探す

## 全国の相談窓口・医療機関を探す

全国の依存症専門相談窓口と医療機関が検索できます（複数選択可）。登録されている窓口及び医療機関は厚生労働省の定めた基準を満たした施設です。依存症専門医療機関の選定基準についてはこちらをご覧ください。

現在位置を表示

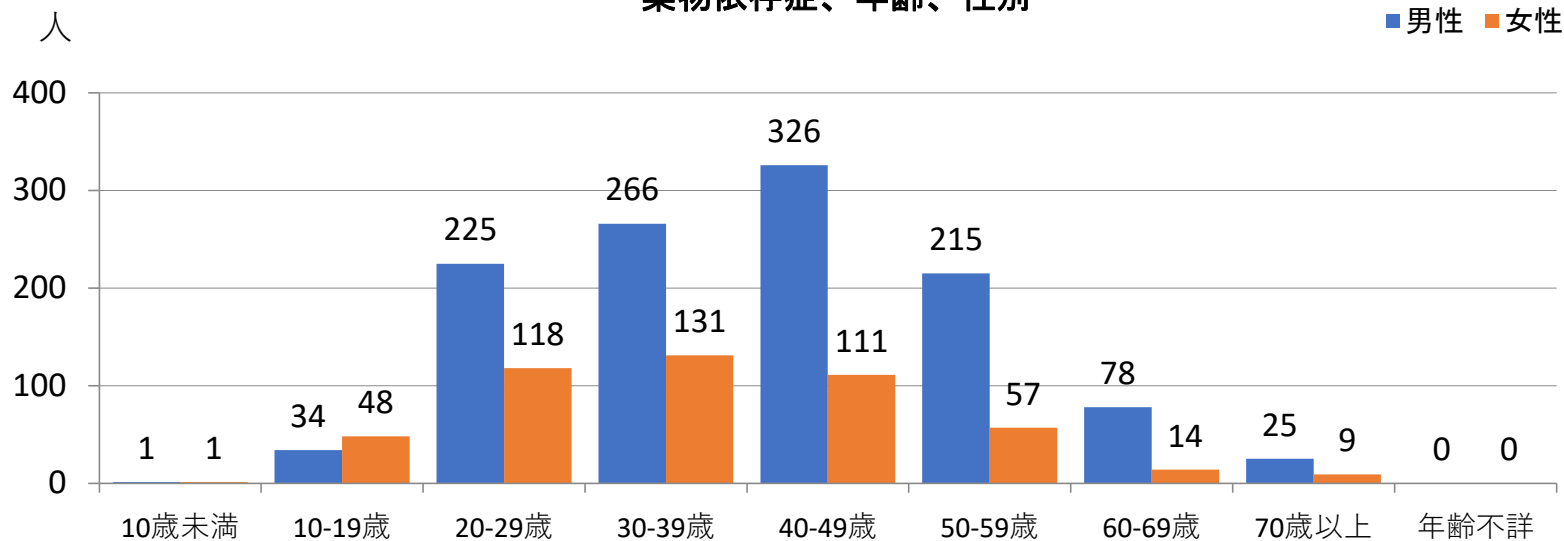


● 専門医療機関 ● 専門相談窓口 ● 依存症一般に関する相談 (※)

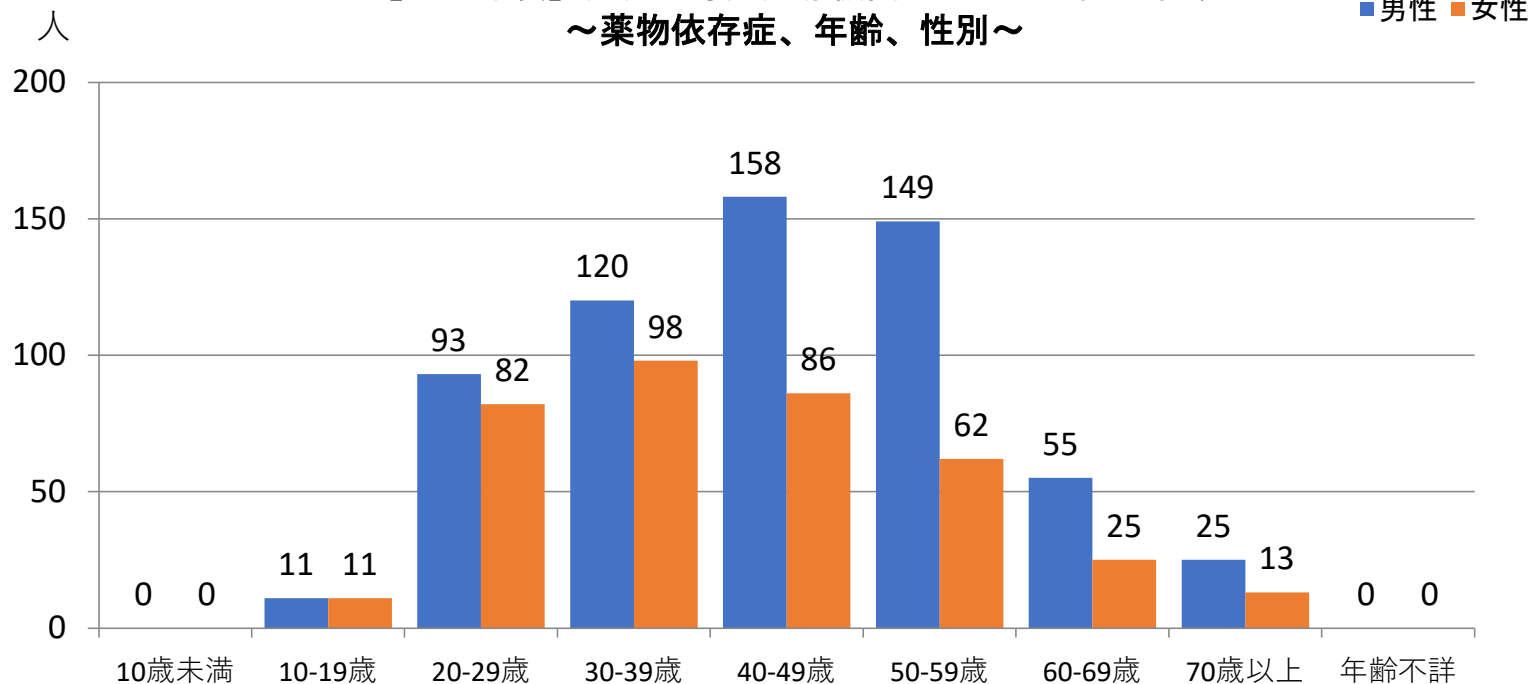
### 医療機関

病院名	住所	電話番号	WEB	アルコール健康障害	薬物依存症	ギャンブル等依存
独立行政法人国立病院機構 久留米医療センター	神奈川県 横須賀市野比 5-3-1	046-848-1550		○		○
医療法人財団青山会 みくろべ病院	神奈川県 秦野市二遊部948番地	0463-88-0266		○	○	
地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター	神奈川県 横浜市港南区岸が谷2-5-1	045-822-0241		○	○	○
医療法人社団拓和会 大石クリニック	神奈川県 横浜市中区弥生町4-41 大石第一ビル	045-262-0014		○	○	○
医療法人誠心会 神奈川病院	神奈川県 横浜市旭区川井木町122-1	045-951-9811		○		
学校法人北里研究所 北里横浜病院	神奈川県 相模原市南区麻生台1-1-1	042-748-9111		○	○	○

【2022年度】依存症専門医療機関における新規受診患者数  
～薬物依存症、年齢、性別～



【2022年度】依存症専門医療機関における入院患者数  
～薬物依存症、年齢、性別～



### 3. 治療回復プログラムの普及、診療報酬での評価

- ・ 精神保健福祉センター等において、SMARPP（薬物依存症者に対する、標準化された集団認知行動療法プログラム）等の集団治療回復プログラムの普及・実践
- ・ 医療機関において適正に実施された薬物依存症集団療法の診療報酬上の評価

#### SMARPP（せりがやメタンフェタミン再乱用防止プログラム）

##### ○薬物依存症に対する、標準化された集団認知行動療法プログラム

- \* 認知行動療法とは、物事の受け取り方や考え方のバランスをとり、ストレス等にうまく対応できるようにする精神療法。
- \* せりがや病院（現神奈川県立医療センター）にて開発され、平成18年より運用されている。

##### （方法）

- ・ あらかじめ定められたワークブックや他の参加者との意見交換を通じ、薬物等に対する誤った知識や考えを改めたり、薬物等の使用に替わるストレス克服等の手段を見つけることを支援する。
- ・ 10－20人の集団に対し、1回90分程度のプログラムを週1回行う。（1クール16回又は24回）

##### 診療報酬による評価（H28年度～）

- 薬物依存症の患者に対し、標準化された方法で実施する集団療法の評価をする。

##### 依存症集団療法 340点（1回につき）

##### [算定要件]

医師又は医師の指示を受けた看護師・作業療法士・精神保健福祉士若しくは公認心理師で構成される2人以上の従事者が認知行動療法の手法を用いて、薬物の使用を患者自らコントロールする手法等の習得を図るための指導を行った場合に算定する。

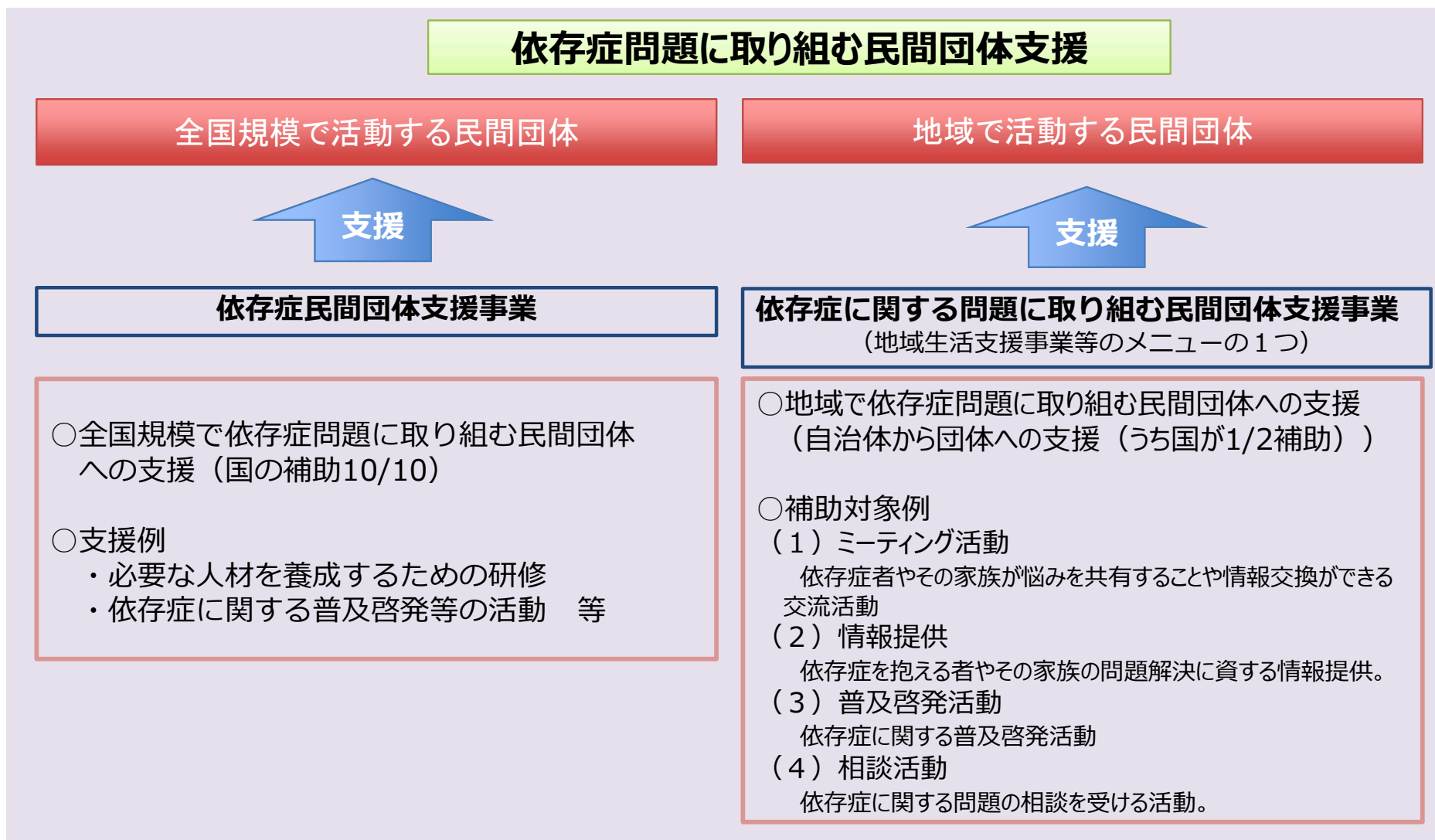
（注：薬物依存症の患者であって、入院中の患者以外のものに対して、集団療法を実施した場合に、治療開始日から起算して6月を限度として、週1回に限り算定する。ただし、精神科の医師が特に必要性を認め、治療開始日から起算して6月を超えて実施した場合には、治療開始日から起算して2年を限度として、更に週1回かつ計24回に限り算定できる。）

## 4. 依存症患者の家族支援

- ・ 精神保健福祉センター等において、家族に対する心理教育プログラムや家族会等を実施

## 5. 自助グループ等民間団体への支援

- ・ 地域や全国規模で薬物依存症の問題に取り組む民間団体の活動を支援



- アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症は、適切な治療とその後の支援によって、回復可能な疾患。
- その一方で、依存症に関する正しい知識と理解が得られていない上、依存症への偏見、差別もあり、依存症の方やその家族が適切な治療や支援に結びついていないという課題がある。
- こうした課題の解決に向けての取組として、イベントやSNSをはじめとする各種媒体で情報発信を進める。

□ 依存症の理解を深めるための普及啓発事業

① アルコール関連のシンポジウムを開催

アルコール依存症当事者・家族・支援者が語る「回復につなぐ（連携のケーススタディ）」をテーマにオンラインシンポジウムを開催  
 令和5年11月15日 ZOOMウェビナーによるオンライン開催  
 進行MC：東ちづる氏（俳優・タレント）、塚本堅一氏（元NHKアナウンサー）  
 Case1 「職域からの介入と医療連携」  
 Case2 「飲酒運転をきっかけに自助グループへ」  
 Case3 「精神保健福祉センターの家族相談を入りに」 等

② 薬物関連のシンポジウムを開催

「若者の生きづらさと薬物依存症～介入と支援の方法について考える」をテーマにオンラインシンポジウムを開催  
 令和6年2月27日 ZOOMウェビナーによるオンライン開催  
 出演：嶋根卓也氏（国立精神・神経医療研究センター）、堀美智子氏（薬剤師）、橘ジュン氏（特定非営利法人BONDプロジェクト代表）、森治美氏（福岡県警察本部少年課少年サポートセンター）ほか

③ トークイベントの開催

「依存症の理解を深めるためのトークイベント 特別授業！みんなで学ぼう依存症のこと in早稲田大学」の開催  
 令和5年11月13日 ZOOMウェビナーによるオンライン開催  
 出演：チュートリアル 福田充徳氏、完熟フレッシュ 池田レイラ氏、星奈津美氏（元競泳日本代表）、佐久間寛之氏（国立病院機構さいがた医療センター院長）、田中紀子氏（ギャンブル依存症問題を考える会代表）

④ 音楽イベントの開催

「依存症の理解を深めるためのトーク&音楽ライブイベント」の開催  
 令和6年3月7日 ハイブリット開催  
 出演：チュートリアル 福田充徳氏（依存症啓発サポーター）ほか スペシャルライブ：ガガガSP

⑤ 地方イベントの開催

「依存症の理解を深めるためのトークイベント 特別授業！みんなで学ぼう依存症のこと in大阪2024」の開催  
 令和6年3月15日 ハイブリット開催 出演：青木さやか氏（タレント・女優）、平成ノブシコブシ 徳井健太氏 ほか

⑥ 特設WEBサイト、SNSを活用した情報発信

◆ 特設WEBサイト(厚労省依存症対策HPよりアクセス可) により、イベント開催マンガ、動画等により依存症に関する正しい知識を啓発

依存症の理解を深めるホームページ (<https://www.izonsho.mhlw.go.jp/>)  
 依存症ナビ (<https://twitter.com/izonshonavi>)

■ 依存症の理解を深めるホームページ ■ リーフレットの作成



⑦ アウェアネスシンボル (Butterfly Heart)

アウェアネスシンボルマーク (Butterfly Heart) を依存症に対する治療・回復支援への応援の意思を表明する象徴として広く展開。

※「アウェアネスシンボルマーク」とは、特定の社会運動における支援や賛同を表明したり、社会問題への気づきを促す際に使用するシンボルマークのことです。

